

# 億太郎生まるる

億太郎は、明治6年（1873）に現在の青森県下北半島  
にある風間浦村下風呂で佐賀庄四郎の五男として生まれ  
ました。



下北半島の地図 下風呂、大畠の位置

つがるかいきょう  
下風呂は津軽海峡に面し、下北半島の斧の形の峰<sup>(※2)</sup>  
おの  
みね  
の中央にあり、対岸には手が届きそうな北海道がはっきり  
と見えます。

古くから温泉があり、現在も温泉地として賑わってい  
ます。



億太郎の生地 現在の下風呂の様子

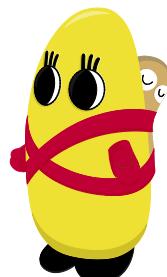
※2 峰  
は  
刃と柄のついた部分をつなぐ部分。

佐賀家は九州佐賀の出身で、江戸時代の初めに下北に  
うつ  
移り住みました。

だいだい てんぱうねんかん なんぶもりおかはん  
代々下風呂に住み、天保年間に南部盛岡藩から名字を  
のることと刀を差すことが許され、「藩の仕事を任さ  
れる商人」の指定を受けていた、下北半島でも由緒ある  
いえがら  
家柄です。

留萌には、佐賀家八代平之丞が弘化元年（1844）に礼  
きよば  
受にニシン漁場<sup>(※3)</sup>を開き、昭和32年（1957）まで、113  
りょう  
年間ニシン漁を続けていました。

かずのこは、  
ニシンの子どもだMO～！



※3 ニシン漁場  
獲ったニシンを加工する場所。

げんざい しせき きゅうもいさがけぎょば  
現在、国指定史跡(※4)「旧留萌佐賀家漁場」として保存  
されている場所です。



留萌市礼受町 国指定史跡 旧留萌佐賀家漁場

しょうしろう はちだいへいのじょう  
億太郎の父庄四郎は、八代平之丞の実の弟で、兄の仕  
事を助け、留萌の礼受の漁場の責任者を務めていました。

#### ※4 史跡

かいづか しゅうらくあと しろあと こふん いせき れきし がくじゅつじょう か ち  
貝塚、集落跡、城跡、古墳などの遺跡のうち歴史・学術上価値の高いも  
のを指し、国や自治体によって指定される。

6才になつた億太郎は、明治12年（1879）に五十嵐綱  
治の養子（※5）になります。

五十嵐家は、江戸時代ルルモッペ場所（留萌）の場所  
請負人（※6）であった栖原家の持ち船の船長を務めた家で、  
栖原家と同じく紀州（現在の和歌山県）出身だといわれ  
ています。

栖原家は、紀州から千葉の九十九里浜でイワシ漁をし、  
その後、江戸に木材問屋を開き、南部桧の産地であった  
下北半島の大畠（現在のむつ市大畠町）に進出し、ここ  
を本拠地として蝦夷地（現在の北海道）との関係を深め  
ていきました。

#### ※5 養子

血のつながらない子どもをもらって、自分の子どもとして育てた子。

#### ※6 場所請負人

江戸時代に藩主などから交易の権利を請けおった商人。

五十嵐家も大畠に本拠をおき、<sup>すはら</sup>栖原家と共に北方の開発に乗り出したと思われます。

そこで、佐賀家やルルモッペ場所の支配人を務めた  
<sup>つと</sup>  
相馬家と関わりを持ったのでしょうか。

父綱治の母親は相馬四郎兵衛  
<sup>つなじ</sup> <sup>そうましろうべえ</sup>  
の妹で、<sup>た</sup>絶えていた五十嵐家を  
再興し(※7)、寅蔵を養子に迎えて  
綱治を生んでいます。



五十嵐綱治

また、明治 11 年 (1878) には、億太郎の 14 才上の姉スワが綱治と結婚しています。

#### ※7 再興

一度無くなった家を再び作ること。

億太郎が五十嵐家の養子になったときから、<sup>ようし</sup><sup>すはら</sup> 栖原家、佐  
賀家、<sup>そうま</sup> 相馬家という三つの家が後ろ盾<sup>(※8)</sup> となつたのです。

明治 13 年(1880)に億太郎は大畠小学校に入学します。

ちょうどこの年に綱治が<sup>つなじ</sup><sup>すはら</sup> 栖原家から独立し、留萌でニシ  
ン漁業を始め、徐々に本拠を留萌に移していきます。

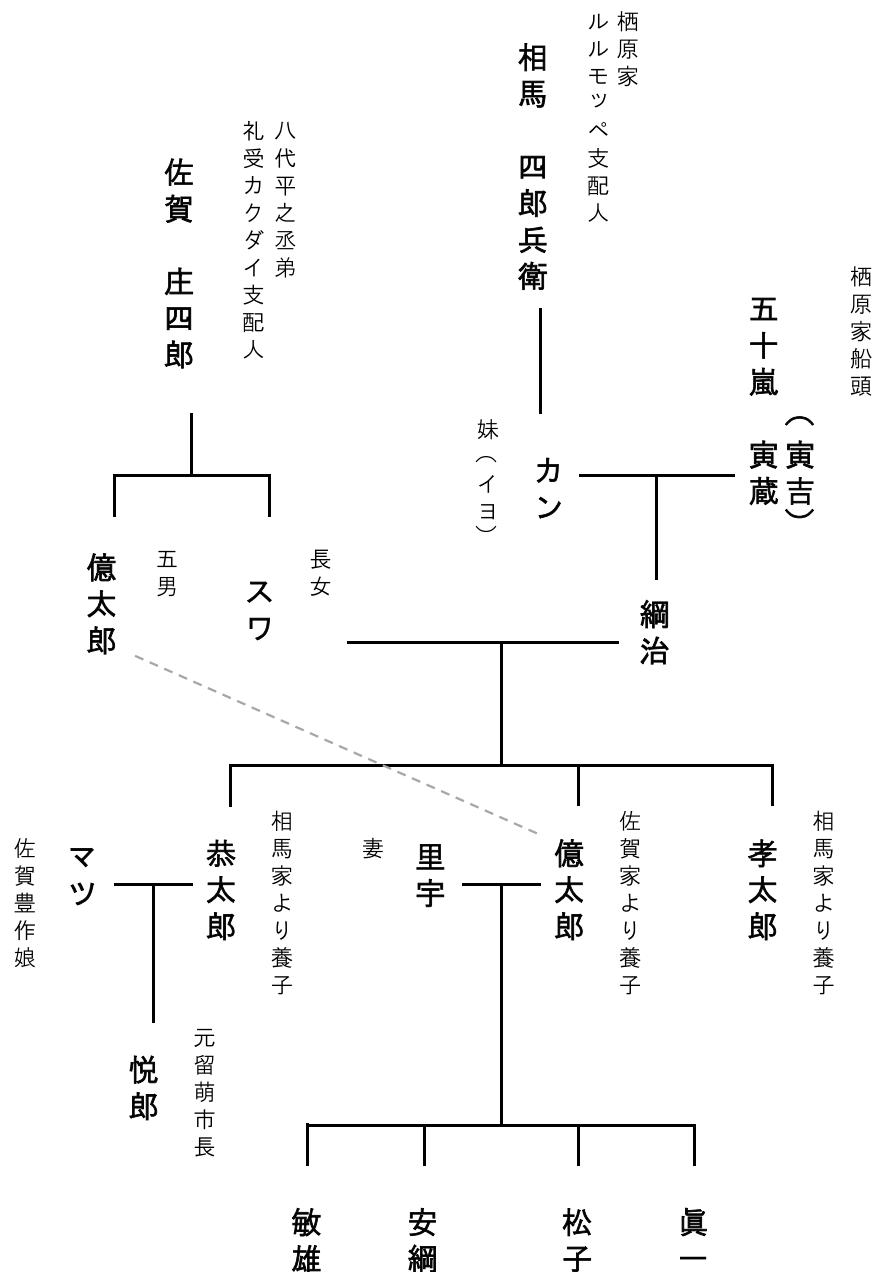
明治 16 年 (1883) に大畠小学校を卒業すると、それを  
待っていたかのように五十嵐家は大畠から留萌村に戸籍<sup>(※9)</sup>  
<sup>こせき</sup> を移します。

#### ※8 後ろ盾

かげ  
陰で力を貸し、助けること。

#### ※9 戸籍

戸とよばれる家族をさす単位。



明治 13 年（1880）からの 3 年間は、大畠の五十嵐家や  
相馬家そうまで暮らしていたと思われます。

毎年、春先になると、大畠の港から北海道の漁場ぎょばに出稼でかせ  
ぎに出て行く父たちの乗った船を見送り、いつかは自分も  
北海道わたへ渡わたって父を助けてやろうと思ったことでしょう。

小学校を卒業してから数年間、億太郎がどこで何をして  
いたのかは、はっきりしていません。

明治 22 年（1889）、16 才になった億太郎は、東京にあ  
った商売の経理けいりをするための商業簿記ぼき（※10）を教える豊國  
学校を卒業し、翌年には水産伝習所すいさんでんしゅうじょ（現在の東京海洋大  
学）に進みました。

#### ※10 簿記

お金や物の出入りを記録する方法。

学) に進学し、新しい漁業や加工技術を開発するための知識を身につけるために勉強します。

億太郎は第3期生で、同期の卒業生は20名でした。

科目は、漁労(※11)、製造(※12)、増殖(※13)などの漁業関係や、応用化学(※14)、英語、気象学(※15)などがありました。

その他に実習があり、千葉の海岸でカツオの地引き網(※16)を見学するなどの体験をしています。

#### ※11 漁労

魚を獲ること。

#### ※12 製造

物を作ること。

#### ※13 増殖

魚などを増やすこと。

#### ※14 応用化学

化学の理論を、生活に応用する学問。

#### ※15 気象学

地球の大気で起こる気象に関する学問。

#### ※16 地引き網

陸を拠点に沖合へ網を廻し、網の両端につけた引き綱を引き揚げる漁法。

この時代、東京において一生懸命勉強すると共に、北海  
道東京事務所の人たちや色々な人たちと知り合いになり、  
その後の億太郎の活動に影響を与えたものと考えられま  
す。



すいさんでんしゅうじょそつぎょうしおう  
水產伝習所卒業證

明治 24 年 (1891) 、18 才になつた億太郎は水産伝習所  
を卒業すると、一時大畠に帰省します。



現在の大畠川河口

その年に留萌と彼の人生にとって重大な運動が始まります。留萌に港を作る運動です。

一人のイギリス人技術者の報告が、五十嵐家の運命を決めたのです。